

## 病 理 学 (2)

教 授 小 泉 富 美 朝  
助 教 授 深 瀬 真 之  
助 手 若 木 邦 彦

### 1. 研究概要

主な研究は次の2つに大別される。

#### 1. 病巣感染症の免疫病理学的研究

糸球体腎炎やリウマチ性疾患は病巣感染の立場から論じられる代表的な2次疾患であるが、これらの2次病変部には細菌などの抗原性物質は証明されず、病因はそのアレルギーによるものと考えられている。しかし従来为数多くのアレルギー実験では急性炎の発症にとどまり、2次疾患の慢性化の機序については不明である。我々はこれまでの研究成果から、かかる慢性化の機序を抗原抗体反応によって局所病巣に生じた病巣抗原(抗原抗体複合物や変性コラーゲンなど)の役割に求めて研究を進めている。

#### 2. 膠原病における血管病変の解析

膠原病における血管炎はフィブリノイド血管炎が特徴である。我々はこの血管炎の成因を追究することが膠原病の病因を解明するための近道と考えている。これまでの成果から、血管炎における抗原抗体複合物の役割、血管病変における副腎ステロイドホルモンの影響などに焦点を合わせて研究を進めている。

### 2. 学会発表(昭和52年度)

1) 副腎ステロイド剤を長期使用したRA, MRAおよびSLE 35剖検例の病理所見について: 小泉富美朝, 深瀬真之, 若木邦彦, 厚生省特定疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班班会議, 52. 1, 東京。

2) 血管炎からみた膠原病の病理: 小泉富美朝, 新潟医学会(綜説講演), 52. 4, 新潟。

3) 僧帽弁動脈瘤をともなった大動脈炎症候群の1剖検例: 深瀬真之, 小泉富美朝, 第66回日本病理学会総会, 52. 4, 岡山。

4) 剖検例よりみた副腎ステロイドホルモンの影響: 小泉富美朝, 深瀬真之, 第21回日本リウマチ学会総会(シンポジウム), 52. 5, 大阪。

5) リウマトイド結節の病理学的研究: 深瀬真之, 小泉富美朝他4名, 第21回日本リウマチ学会総会,

52. 5, 大阪。

6) a) フィブリノイド動脈炎の発生機序—滲出と壊死—SLEの場合: 小泉富美朝, b) ステロイドホルモンと血管炎: 小泉富美朝, 系統的血管病変に関する国内ワークショップ, 52, 8, 東京。

7) 病理よりみた扁桃陰窩: 小泉富美朝, 第17回日本扁桃研究会総会(シンポジウム), 52. 11, 京都。

### 3. 刊行論文・著書等(昭和52年度)

1) Koizumi, F. and Nitto, H.: Immunofluorescent study on cutaneous vascular lesions of 16 patients with systemic lupus erythematosus. *Vascular Lesions of Collagen Diseases and Related Conditions*, Ed. by Japan Medical Research Foundation, University of Tokyo Press, p. 43-46, 1977.

2) Saito, K., Koizumi, F. and Sumiyoshi, Y.: Viral placentitis A case report. *Acta Path. Jap.* 27(2): 275-282, 1977.

3) 北村四郎, 小泉富美朝: 病理—内科シリーズ No. 25「全身性エリテマトーデス」, 南江堂, 91-103頁, 1977.

4) 小泉富美朝, 深瀬真之, 若木邦彦: 副腎ステロイド剤を長期使用したRA, MRA, およびSLE35剖検例の病理所見について, 厚生省特定疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班1976年度研究報告書303-309頁, 1977.

5) 小泉富美朝: 血管炎からみた膠原病の病理. *新潟医学会誌* 91(8): 481-486, 1977.

6) 東條猛, 深瀬真之, 小泉富美朝他4名: 最近経験した悪性関節リウマチ2症例の臨床的および免疫学的検討, *リウマチ* 17(5): 499-507, 1977.

7) 小泉富美朝: 病理よりみたステロイド剤の影響, *臨床免疫* 9(8): 611-617, 1977.

8) 小泉富美朝, 深瀬真之: 剖検例よりみた副腎ステロイドホルモンの影響, *リウマチ* 17(6): 583-586, 1977.